

<工業用水道事業>

1 令和2年度決算の概況

○損益計算書

(税抜 単位:百万円)

項 目	令和2年度(a)	令和元年度(b)	増減(a)-(b)	増減率(%)
総 収 益	1,791	1,762	28	1.6
営 業 収 益	1,617	1,584	33	2.1
給 水 収 益	1,558	1,579	▲ 21	▲ 1.3
受 託 工 事 収 益	56	3	53	1,703.0
そ の 他	2	2	0	▲ 1.7
営 業 外 収 益	170	151	18	12.2
預 金 利 息	2	2	0	22.2
貸 付 金 利 息	2	2	▲ 1	▲ 39.7
長 期 前 受 金 戻 入	165	146	19	13.1
そ の 他	1	1	▲ 1	▲ 85.4
特 別 利 益	4	27	▲ 23	▲ 85.4
総 費 用	1,962	1,578	384	24.3
営 業 費 用	1,754	1,494	259	17.4
維 持 管 理 費	1,007	890	118	13.1
人 件 費	239	196	43	21.9
動 力 費	32	36	▲ 5	▲ 13.2
薬 品 費	8	8	▲ 1	▲ 7.2
修 繕 費	56	56	0	▲ 0.1
委 託 料	616	527	96	18.3
そ の 他	56	67	27	40.7
受 託 工 事 費	57	3	54	1,703.0
減 価 償 却 費	578	596	▲ 19	▲ 3.1
資 産 減 耗 費	112	5	107	1,962.3
営 業 外 費 用	11	16	▲ 5	▲ 31.9
支 払 利 息	11	16	▲ 5	▲ 33.1
そ の 他	1	1	0	5,136.2
特 別 損 失	197	68	130	191.7
当 年 度 純 利 益	▲ 171	184	▲ 354	▲ 193.2

※ 金額は百万円単位だが、増減及び増減率については1円単位で計算している。

※ 内訳は、主なものを記載しているので、合計と一致しない場合がある。

※ 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

- 前年度と比較して給水収益(=料金収入)が2,100万円減少(▲1.3%)、受託工事収益が5,300万円増加(+1,703.0%)。長期前受金戻入の増加により営業外収益が1,800万円増加(+12.2%)、特別利益が2,300万円減少(▲85.4%)し、総収益は全体で2,800万円(+1.6%)の増加となった。
- 前年度と比較して維持管理費が1億1,800万円増加(+13.1%)し、資産減耗費、特別損失の増加などにより、総費用は全体で3億8,400万円の増加(+24.3%)となった。
- この結果、当年度純利益は、前年度比で3億5,400万円減(▲193.2%)の▲1億7,100万円となった。

○貸借対照表

(単位:百万円)

項目	令和2年度(a)	令和元年度(b)	増減(a)-(b)	増減率(%)
資産の部	25,213	25,606	▲ 393	▲ 1.5
固定資産	12,231	12,351	▲ 120	▲ 1.0
有形固定資産	11,314	11,191	123	1.1
無形固定資産	650	700	▲ 51	▲ 7.2
投資その他の資産	268	460	▲ 192	▲ 35.0
流動資産	12,982	13,255	▲ 273	▲ 2.1
現金預金	12,418	12,612	▲ 194	▲ 1.5
未収金	342	436	▲ 94	▲ 1.5
短期貸付金	192	192	0	99.5
負債の部	3,761	3,982	▲ 221	▲ 5.6
固定負債	464	638	▲ 174	▲ 27.2
企業債	175	271	▲ 95	▲ 35.2
引当金	289	367	▲ 78	▲ 21.3
流動負債	204	339	▲ 135	▲ 39.8
企業債	95	107	▲ 12	▲ 11.0
未払金	77	196	▲ 119	▲ 60.6
引当金	16	15	1	4.9
繰延収益	3,093	3,005	87	2.9
資本の部	21,452	21,624	▲ 172	▲ 0.8
資本金	13,701	13,549	151	1.1
剰余金	7,751	8,075	▲ 324	▲ 4.0
資本剰余金	378	378	▲ 1	▲ 0.2
利益剰余金	7,373	7,696	▲ 323	▲ 4.2
負債資本合計	25,213	25,606	▲ 393	▲ 1.5

※ 金額は百万円単位だが、増減及び増減率については1円単位で計算している。

※ 内訳は、主なものを記載しているため、合計と一致しない場合がある。

※ 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

・ 【資産の部】

- 有形固定資産は柿木浄水場2系電気設備取替工事の完成等により1億2,300万円増加(+1.1%)した。
- 無形固定資産は、水利権の減価償却進行などで、5,100万円減少(▲7.2%)した。
- 投資その他の資産は1年以内に償還される予定の水道用水供給事業への貸付金を投資から流動資産に振り替えたことなどにより1億9,200万円減少(▲35.0%)した。流動資産は現金預金及び未収金の減少により2億7,300万円減少(▲2.1%)した。
- 資産総額は、3億9,300万円減少(▲1.5%)の252億1,300万円。

・ 【負債の部】

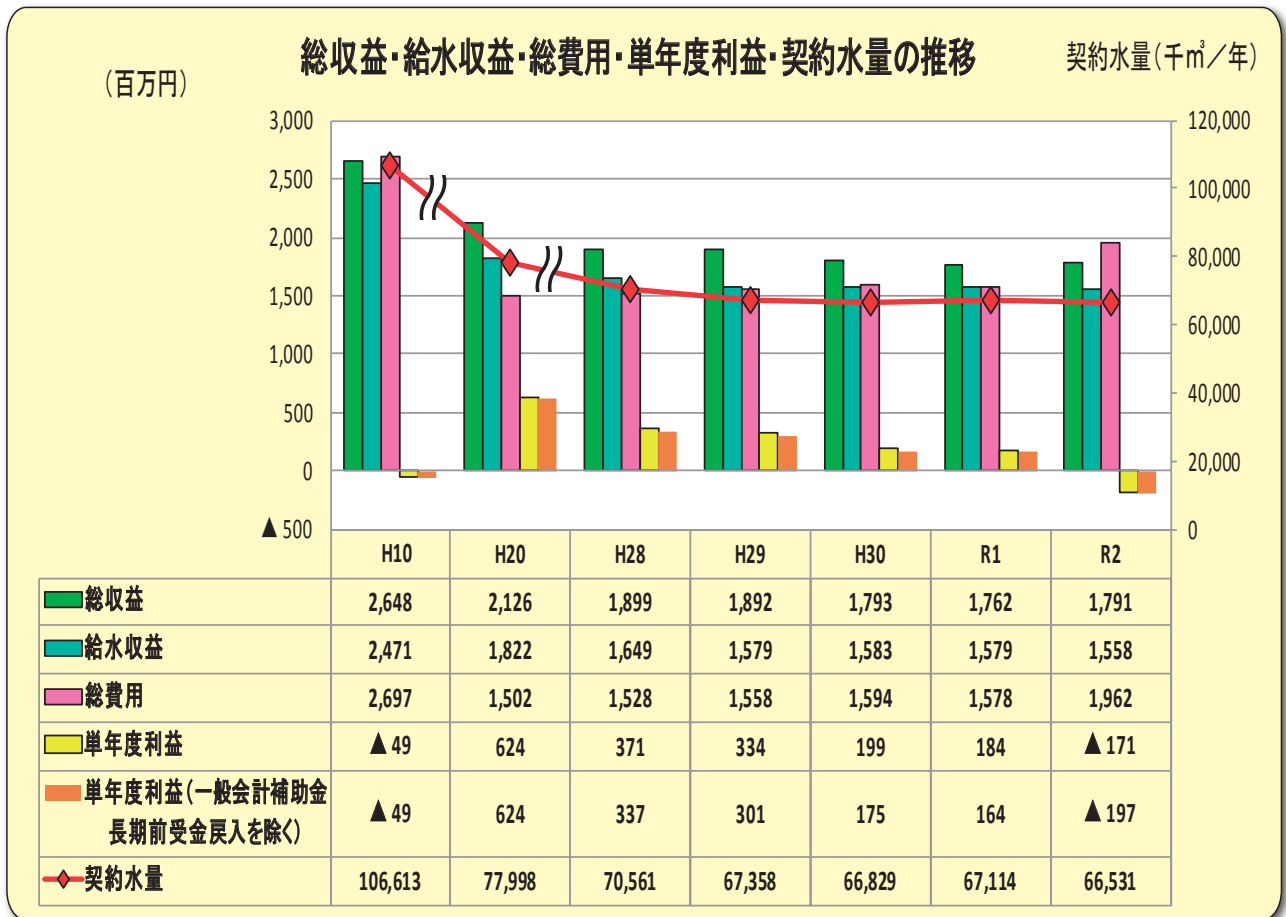
- 固定負債は1年以内に償還する企業債を流動負債に振り替えたことなどにより1億7,400万円減少(▲27.2%)した。
- 流動負債は、未払金の減少、企業債の支払により1億3,500万円減少(▲39.8%)した。負債総額は2億2,100万円減少(▲5.6%)の37億6,100万円

・ 【資本の部】

- 資本金が1億5,100万円増加(+1.1%)した。
- 利益剰余金は利益処分案議決に伴う資本組入れ、当期純損失の計上により3億2,300万円減少(▲4.2%)した。
- 資本総額は1億7,200万円減少(▲0.8%)の214億5,200万円となった。

2 経営状況の推移

工業用水道事業は、令和2年度末現在で146事業所（前年度▲4事業所）へ給水している。平成12年度以降は毎年度純利益を確保してきたが、令和2年度決算は施設のダウンサイジングによる特別損失の計上により、21年ぶりの赤字決算となった。なお、経常利益は確保している。



※ 契約水量 …… 給水事業所と供給契約を締結した一定水量。料金は実際の使用水量にかかわらず契約水量で算定している。

(1) 近年の収益動向

平成5年度以降料金を据え置いていること、また給水事業所の廃止・撤退などによる契約水量の減少により、総収益の8割以上を占める給水収益（料金収入）は年々減少が続いている。

(2) 近年の費用動向

- 平成27年度以降、総費用は年度により増減はあるが、増加傾向にある。
- 費用の中核を占める減価償却費及び維持管理費は前者は1,900万円減少（▲3.1%）し、後者は柿木浄水場包括委託の計画修繕費の増加等により1億1,800万円の増加（+13.1%）となった。
- 支払利息は、企業債残高の減少に伴い減少を続けている。

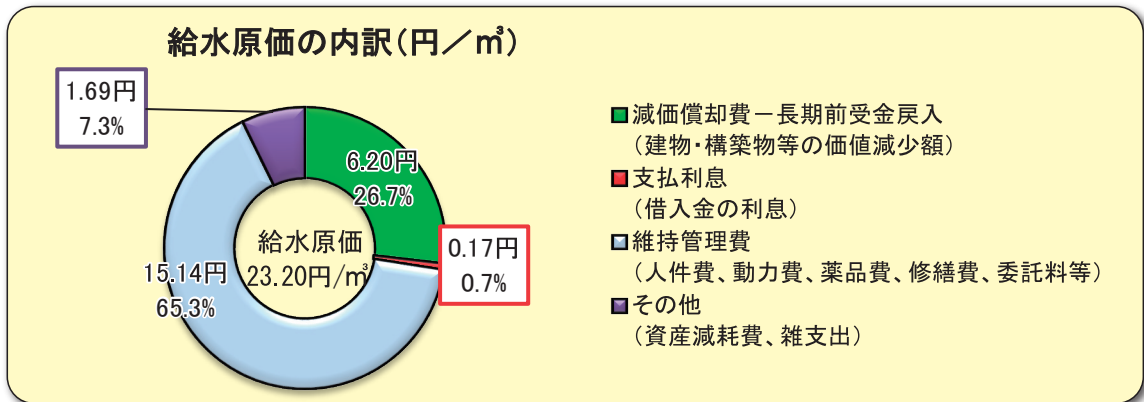
(3) 近年の当年度純利益

- 平成12年度以降毎年度「単年度利益」を計上している。これは費用削減や内部留保資金の有効活用（水道用水供給事業会計への長期貸付）などによって達成してきた。しかし、契約水量の減少により利益は減少傾向にあり、令和2年度は前年度比で3億5,400万円減少（▲193.2%）し、▲1億7,100万円となった。

3 給水原価(令和2年度)・供給単価(令和元年度)

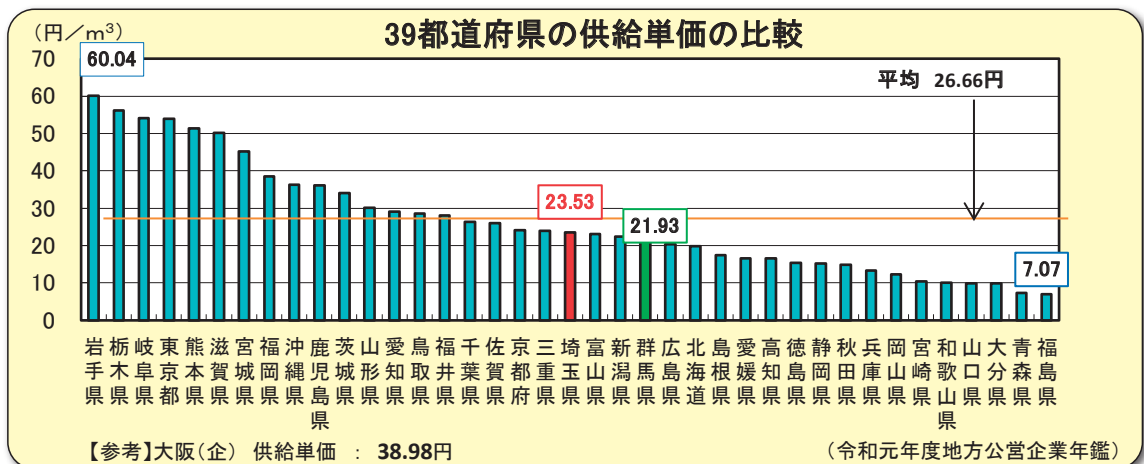
(1) 給水原価(令和2年度)・・・水1m³を配水するためにかかる費用を示す指標

給水原価は23.20円/m³(税抜。前年度比+2.91円/m³)で、「減価償却費—長期前受金戻入」、「支払利息」、「維持管理費」及び「その他」の区分による内訳は下図のとおりである。「維持管理費」が原価の6割以上を占めていることが特徴である。



(2) 供給単価(令和元年度)・・・水1m³を売ると得られる料金収入を示す指標

供給単価は23.53円で、全国39の都道府県営工業用水道事業体の中で中位に位置している。なお、この供給単価は(給水収益÷契約水量)で算定しており、実際の料金とは異なる。(令和2年度 23.42円/m³)



4 主な経営指標の概況

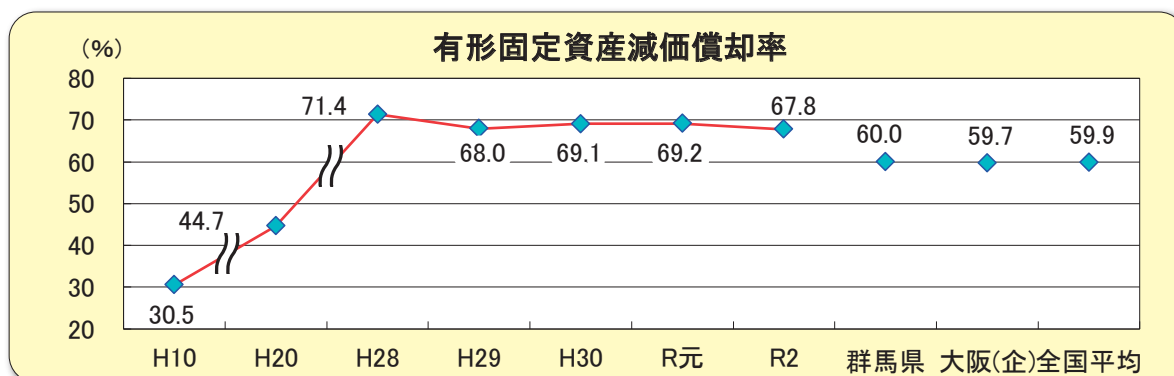
区分	指標名	望ましい方向	R2年度実績	R元年度実績	増減
収益性	営業収支比率(%)	↑	92.0	106.0	▲14.0
	経常収支比率(%)	↑	101.2	114.9	▲13.7
流動性	流動比率(%)	100%以上	6,361.0	3,910.9	2450.1
健全性	自己資本構成比率(%)	↑	97.3	96.2	1.1

- ※ 営業収支比率 …………… 工業用水道事業本来の事業活動の収益力を判断する指標
- ※ 経常収支比率 …………… 工業用水道事業本来の事業活動に加え、資金運用など営業外収支も含めて収益力を判断する指標
- ※ 流動比率 …………… 1年以内に期限が到来する短期債務の支払能力を示す指標
- ※ 自己資本構成比率 …………… 負債・資本の合計額に占める自己資本額の割合から、財務の健全性を判断する指標(「50%以上」が理想的水準)

- ・ 営業収支比率は 100%を下回っており、現時点では営業費用を営業収益で賄なえていない状況である。経常収支比率は、前年度に引き続き 100%を超えているため、現時点の収益性は良好な状況と判断できる。しかしながら今後、どちらの比率も給水収益の減少に伴い減少していくことが予想される。
→【指標が 100%未満である場合＝損失（営業損益、経常損益段階で赤字）の発生】
- ・ 平成 28 年度に策定した第 4 次企業局経営 5 か年計画では、計画期間中（平成 29 年度～令和 3 年度）、経常収支比率を 100%以上にするを目標としている。
- ・ 流動比率は、100%を超えているほか、望ましいとされる 200%を大きく超えており、日々の資金繰りに問題はないと判断できる。
- ・ 自己資本構成比率は、平成 11 年度の 59.4%を底として年々上昇（＝改善）している。これは、企業債残高の減少で自己資本の拡充が行われたことによる。

5 有形固定資産減価償却率 … 有形固定資産の減価償却の進行度から施設・設備の経年化・老朽化の程度を判断する指標

- ・ みなし償却制度が廃止になったことから、平成 26 年度からは 70%台となった。令和 2 年度は前年度より減少し、67.8%となった。60%台を維持したものの、有形固定資産の経年化の度合いは高いことが分かる。
おもな資産別減価償却率：建物 38.2%、構築物 73.4%、機械及び装置 59.9%等
- ・ 平成 28 年度に策定した第 4 次企業局経営 5 か年計画では、計画期間中（平成 29 年度～令和 3 年度）、有形固定資産減価償却率を平成 28 年度水準（71.4%）に維持することを目標としている。

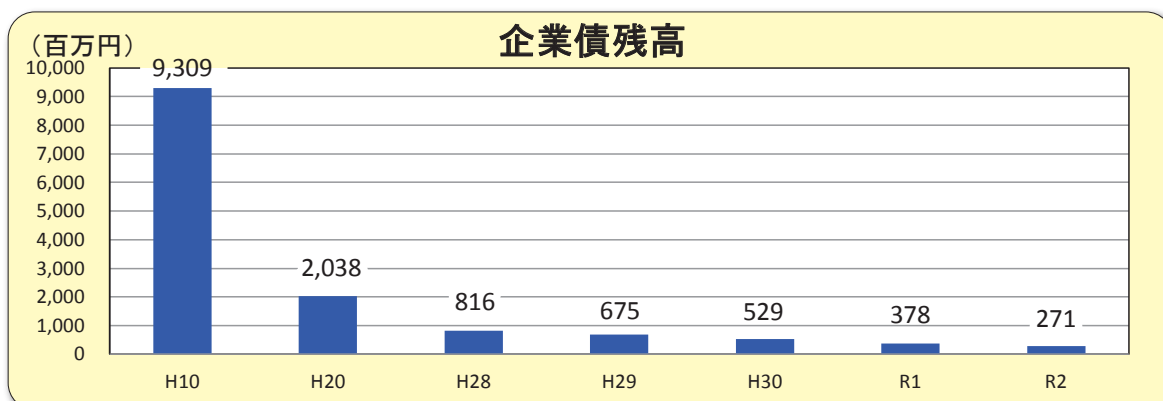


6 企業債残高の動向

外部借入金である企業債は、過去 4 回に渡り繰上償還を実施したことや平成 12 年度以降新たな企業債を発行していないことによりその残高は年々減少している。

企業債残高は、平成 6 年度末の約 110 億円をピークに年々減少し、令和 2 年度末は 2.7 億円で財務内容の健全化が進んでいる。

→【ピーク時と比べ 2.5%程度まで債務圧縮を実現】



7 経営課題

(1) 主な経営課題

- ① 契約水量減少による経営への影響
- ② 老朽化施設・設備及び管路の更新や耐震化事業に伴う減価償却費等の増加
- ③ 契約水量と実使用水量のかい離

(2) 課題に対する対応

平成 28 年度に策定した第 4 次企業局経営 5 か年計画に基づき以下のとおり対応する。

①-1 収支均衡を見通した投資・財政計画

現在の料金水準では、近い将来経常赤字が続く状況になると予測されるため、今後の収支を慎重に見極め、更なるコスト削減や料金値上げなども含めた経営改善により収支が均衡となるように計画的に事業を実施していく。

①-2 コスト縮減の徹底

柿木浄水場の管理運営包括委託を引き続き実施するなど、維持管理費の縮減を図る。施設・設備の実態や今後の契約水量等の動向を十分に踏まえた上で、発注方法の工夫、技術革新による仕様の見直し、汎用品採用などにより施設・設備の更新コスト縮減につなげる。

①-3 管路網を考慮した効率的な販路開拓の実施

契約水量や給水収益は、今後も減少が続くと見込まれるため、管路網を考慮した営業活動を強化していく。

②-1 老朽施設・設備の計画的な更新等

優先度を見極めた計画的な施設・設備の更新を実施して、各年度の費用への影響をできる限り平準化する。

配水管路は、更新が長期間に及び費用も多額になることが見込まれるため、経営に及ぼす影響を見極めながら計画的に進めていく。また、AI 技術を活用した管路診断の導入も検討し、管路管理の効率化を検討していく。

②-2 アセットマネジメントによる施設等の適正な管理

施設・設備の老朽化が進行し多額の更新財源が必要となる中で、本事業の経営を健全に維持していくためには、長期的視点に立ち施設の効率的かつ効果的なアセットマネジメント（資産管理）を行い、中長期の効率的な更新需要の把握や計画的な更新につなげていく。

③ 料金制度の見直し検討

契約水量と実使用水量のかい離を解消するため、平成 29 年度に契約水量の減量を希望する事業者については、9%を上限に契約水量の変更を行った。

今後は、工業用水道事業の持続的な経営を前提として、受水事業所との意見交換を積極的にしながら、双方にとってメリットのある料金制度の検討を行う。

令和 3 年度（令和 2 年度決算）経営レポート概要版【令和 4 年 1 月発行】

編集発行：埼玉県 企業局 水道企画課 企画・経営担当

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂 3-14-21

電話：048-830-7064 e-mail：a7050-06@pref.saitama.lg.jp

※この経営レポートの本編は、下記ホームページにおいて公開しています。

埼玉県企業局水道企画課／経営レポート

